



にしきの子

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

そろばん教室（3学年）



1月23日（火）・24日（水）、そろばん教室を行いました。講師は、本校第一期生の卒業生で、現同窓会長の亀和田公一先生です。まず学年全体に、そろばんの歴史についてお話がありました。また、世界65か国を訪問した際の経験談や、世界の様々なそろばんについての話は、実に興味深い内容でした。メソポタミアで生まれ、約5千年の歴史を誇るそろばんの魅力をたくさん感じとりながら、実際にそろばんを使い計算の仕方を学ぶことができました。亀和田先生、大変お世話になりました。

冒険活動教室（5学年）

1月25日（木）から27日（土）までの2泊3日で実施しました。厳しい寒さの中での活動でしたが、児童は元気に取り組み、3日間のプログラムを無事に終了することができました。自然体験や宿泊体験を通して、自主性や主体性が身についたり、仲間との絆を深めたりすることができたようです。6年生への進級を前に、大きな成長を実感できる貴重な3日間となりました。



地域協議会（第3回）

2月2日（金）、今年度最後の地域協議会を開催しました。主な議題は、学校マネジメントシステムアンケート集計結果に基づいた学校評価についてです。会議で議論された様々なご意見を、次年度の学校運営に生かしてまいります。また、「ありがとう標語」の入賞作品については次のとおりです。



会長賞

令和五年度 四学年児童作品 錦小地域協議会
伝えよう
にっこり笑って
ありがとう

校長賞

令和五年度 六学年児童作品 錦小地域協議会
一言で
つたわる想い
「ありがとう」

優秀賞（4点）

令和五年度 一学年児童作品 錦小地域協議会
つたえよう
こころのこもった
ありがとう

令和五年度 二学年児童作品 錦小地域協議会
ありがとう
えがおになるよ
そのことば

令和五年度 三学年児童作品 錦小地域協議会
ありがとう
小さな感しやも
わすれずに

令和五年度 五学年児童作品 錦小地域協議会
ありがとう
自然に言える
すてきな

◇最新の情報は、本校のホームページでご確認ください◇



全校集会（標語表彰）

区分	学年・組	氏名	区分	学年・組	氏名
会長賞	4-2	横田 雄亮	優良賞	3-1	土井 一颯
校長賞	6-1	堺 麗文	"	3-2	高堀 風花
優秀賞	1-1	稻熊 完紀	"	3-2	木村 文香
"	2-2	星 英美里	"	4-1	野口 結愛
"	3-1	半田 葵	"	4-1	佐藤 美日菜
"	5-1	稻熊 安彩	"	4-2	齋田 奈那
優良賞	1-1	癸生川 葉月	"	5-1	佐藤 心暖
"	1-2	倉山 えみり	"	5-2	西村 すみれ
"	1-2	佐藤 花菜羽	"	5-2	高德 紗望
"	2-1	成廣 壮亮	"	6-1	篠原 真
"	2-1	清水 奏	"	6-2	門脇 寛弥
"	2-2	大倉 あかり	"	6-2	星野 沙和

2月7日（水）、地域協議会主催の「ありがとう標語」で入賞した児童の表彰を行いました。表彰後、加藤幸行地域協議会長からお預かりしたメッセージを読み上げ、「ありがとう」の言葉の意義や、自分たちが作った標語を日頃から意識して使っていくことの大切さを伝えました。受賞した児童は一覧表のとおりです。



授業参観・学級懇談会

1月31日（水）、授業参加を実施しました。感染症が流行している時期でしたが、保護者の皆様には感染防止にご協力いただきながら、無事に実施することができました。また、今年度最後の学級懇談会では、貴重なご意見をいただき、共通理解を図るなど有意義な時間となりました。なお、休業していた学級も後日実施いたしました。保護者の皆様、お世話になりました。



前後際断（ぜんごさいだん）

令和5年度も残すところあと一月余り、一年間の様々な資料を整理していたら、5月に号外として発行されたPTA広報紙「にしき」ができました。最初の職員紹介の欄で、座右の銘は「前後際断」と書いた自分の文章を読み、錦小学校に赴任して間もない頃の事を思い出すと同時に、改めて自分の座右の銘を再確認いたしました。幼少の頃はよく、「もし～をしていたら」「もし～すれば」という、事実とは異なることを仮定してする後悔、つまり「たれば」の思考に陥っていました。一度後悔の溝に落ちるとなかなか前に進むことができず、ただ疲れが残るだけであったことを思い出します。沢庵和尚は、『不動智神妙録』という書物の中で、「前（過去）と今、今と後（未来）の際を切り離して今を生きよ」と書いています。過去を悔やむことなく、未来を案ずることなく、今、なすべきことに全力を尽くすべし、という意味で、これが「前後際断」です。沢庵和尚の教えは、「自分に今できることは、現在の事実を起点として、これからよりよい行動を重ねることに集中することだけである。今の行動に集中するためには、過去の成功や失敗を引きずらないこと、つまり過去も未来も断ち切り、今にすべてを集中することである」と解釈できます。特に、学生の頃は勉強をしていた時、社会人になれば仕事をしていた時に、この「前後際断」を意識していたことを覚えています。もちろん「前後際断」という言葉は知りませんでしたが、それを意識することで気持ちがとても楽になり、前向きに取り組めたと思います。「今にすべてを集中する」は、日常生活の何気ない行動でも素晴らしいプラスの効果を発揮します。例えば、散歩をしている時であれば、嫌なことを思い出したり、仕事や勉強のことを考えたりしながら歩くのではなく、目の前の景色、肌に感じる気温や湿度、空気の匂い、また足の裏から伝わる地面の質感など、五感を働かせながら「今の散歩に集中する」ことです。不思議と心地よい疲れが副交感神経を刺激し、リラックスでき頭が冴えてきます。脳が健全であれば心も健全になります。嫌なことを完全に忘れることはできませんが、健全な心で気持ちは前向きになり、未来に向き合うことができます。沢庵和尚の教えとは少し違うかもしれませんが、「前後際断」を自分なりに解釈し、座右の銘として肝に銘じ日々生活をしていきたいと考えています。

